



岩手県脱炭素経営事例集

- ➡ 脱炭素経営ってなに？
- ➡ 事業者はどのような地球温暖化対策ができるの？
- ➡ 脱炭素経営をすることでどんなメリットが得られるの？

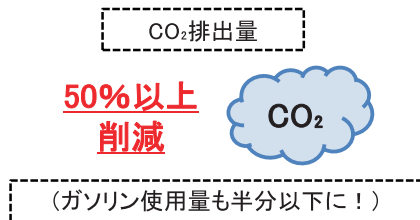


Case 12

「環境先進企業」を目指した脱炭素経営の推進

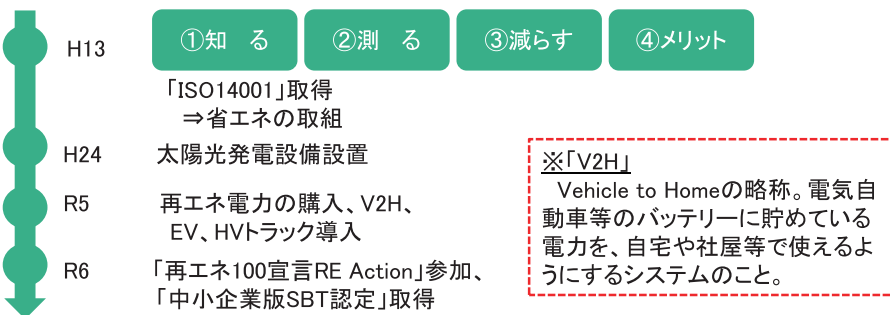
1. 主な取組と効果

- ・太陽光発電設備とV2H導入、営業車2台のEV・PHV更新で、
当該取組に係るCO₂排出量を**半分以上に！**



営業車充電の様子

2. 取組の経緯



事業者名：ニッコー・ファインメック株式会社
(その他サービス業)



- ◆業種 産業廃棄物処理業
- ◆住所 一関市千厩町奥玉字 天ヶ森75-6
- ◆TEL 0191-56-2601
- ◆従業員数 88名
- ◆事業概要 産業廃棄物収集運搬及び中間処理業 等
- ◆URL <https://www.nikkofm.co.jp/>



①知る

②測る

取組の経緯

- 平成13年、事業拡張を機に、県内の産業廃棄物処理業者で初の「ISO14001」を取得した。
→軽油、ガソリン、電気使用量からCO₂排出量を表計算ソフトで管理。トラックの燃費改善、事務所の窓や床の気密性向上など簡単に取り組めることから開始。効果があるかチェックを行い、「改善」の繰り返し。
- 電気使用量は、デマンド監視装置により可視化。使用量が多いと警報が鳴る仕組み。
- 環境に関する社内勉強会を定期的開催し、従業員の理解力が向上。
- 処理量1tあたり、運搬量1tあたりといった原単位での削減目標を立てている。

③減らす

取組の内容

- 太陽光発電設備を設置、再エネ電力の調達。
- HVトラックを導入。
- 営業車は全てHV、PHV、またはEVに切り替え。
- デマンド値の調整により、設備の負荷を抑えることで、電気代の削減と処理量の向上を実現。
- 「再エネ100宣言 RE Action」に参加。
- 「中小企業版SBT認定」を取得。



デマンド監視装置による可視化

④メリット

取組によるメリット

- 業務効率化による削減の取組を社内表彰。
→従業員のモチベーション向上。
- 太陽光発電設備及びV2Hの導入、HVトラック導入、社用車のEV化、デマンド活用による負荷低減等で光熱費を削減。
- HVトラック導入時に、金融機関の利子補給型脱炭素ローンの活用など、好条件での資金調達を実現。
- 「再エネ100宣言 RE Action」、「中小企業版SBT認定」による優位性の構築。

本事例では
・金融機関支援
を活用したよ！
・外部認定
を取得したよ！



(事業者の声) ニッコー・ファインメック株式会社 代表取締役 小野寺 真澄 様(中央)
生産管理部課長 吉田 勇太 様(左)
経理課 木村 るみ 様(右)

環境に対する取組について、創業者が常に先手を取りながら、20年近く社員と一緒に取り組んできた成果が表れていると思います。社員の皆さんが働く会社が、社会に良いことをしているという自信を持つことで、ここで働く意味を感じてほしいです。
ここ数年の気候変動の激しさから、皆さんが未来の地球環境への不安を感じていると思います。脱炭素の取組は大きな企業に限ったことではなく、事業活動をしていれば中小企業も果たす責任があります。サプライチェーンの下流だとしても、「CO₂排出量削減の取組をしています」と、モノ作り流通の一員として胸を張ってこの業界の存在を示したいです。

